



鎌田さん

本紙では9月30日、斬新社及びバリアフリー展との3社共催による介護事業者向けセミナーを開催する。テーマは今、最も関心の高い「介護の生産性向上」。講師は、2017年から内閣府や厚生労働省の生産性向上関連事業に参画している鎌田大啓さん(TRAPE代表取締役CEO/CWD)だ。鎌田さんがセミナーで伝えたいのはマニュアルやガイドラインの活用方法といった表面的なものではない。生産性向上の真の意味、つまり「本質は人づくり・組織づくり」ということだ。改めてセミナーの開催主旨をお伝えしたい。ぜひご参加を(※下の広告からお申込みください)。

セミナーの企画の発端となったのは、共同主催者である斬新社・久保田好正さんが今年から本紙でスタートした連載「斬新な次の一手」である。今週号で33回を数え、読者の皆さんにも馴染みになっていくと思う。深刻な人手不足が続く上、国からは求められることがどんどん増え、報酬改定も「給付適正化」のもと、切り下げが既定路線。さらに終息のめどが立たないコロナ禍……と不安ばかりが募っても

9月30日開催！ 全介護経営者必聴

本紙・斬新社・バリアフリー展共催 真の「生産性向上」への経営戦略セミナー

目的は人員削減でなく「人づくり」



本紙連載「斬新な次の一手」で鎌田さんの生産性向上を紹介。セミナー参加者にPDFを差し上げます

だが、鎌田さんはそれなく、ICTや介護ロボットを誤解であると言いつつ、トなどテクノロジーを使い、国からの委託を受けて、2017年から現在に至るまで、介護現場の生産性向上を進めるためのガイドライン作成や研修を展開する中で、一貫して「介護の生産性とは、介護の価値を高める人づくり・組織づくり」だと明言してきた。久保田さんの連載では3回にわたり、その生産性の本質とは何かを紹介した。

「まず経営者がビジョンを明確にすること。そして「理念だけを語るのではなく経営者自身が責任者となり、現場に丸投げせず現場と一緒に参画すること。」「新しい価値を生み出すために、まず現場を見直し負担を減らす引き算をすること(連載「斬新な次の一手」)」。鎌田さんの言う生産性向上を実践する取り組みは、ガイドラインやマニュアルの活用方法のうな薄っぺらいものでは

「私自身、国とともに介護現場の生産性向上に取り組んで6年経ちますが、最も実感しているのは経営者の意識と行動を変えなければ現場も変わらないということ。それほど経営の本質とがっちりかかっているものですね。セミナーに参加することで、介護事業は本場に創造的でクリエイティブな価値があるものだということが再確認してほしい。そして、ワクワクして人づくり・組織づくりに取り組む第一歩になってほしいですね(鎌田さん)」。今回、セミナーに参加した方には、特典として前述した「斬新な次の一手」真の生産性向上とは①②③のバックナンバーPDFを送付する。これを予備知識にして当日のセミナーを視聴いただき、さらに生産性向上に対する理解と取り組みへの意欲を深めてもらいたいと思っている。

また、当日は視聴者からの質問にも時間の許す限り応えるので、申し込みの際に生産性向上に関する悩みなども寄せてください。

新企画！ シルバー新報・斬新社・バリアフリー展合同ウェビナー

「介護の価値を高める！ 真の『生産性向上』への経営戦略」

参加特典資料 付

2022年 9/30(金) 15:00~17:00

参加費 3000円 (税込)

配信方法：ウェビナー形式 (ZOOMを使用)
申込みはHPまたはQRから▶

※申込締切 2022年9月28日 17:00まで

講師：鎌田 大啓 氏
株式会社TRAPE代表取締役CEO/CWD 作業療法士

厚生労働省は今年度、2024年度の介護報酬改定に向け、介護現場での生産性向上の効果を測定する実証事業に着手します。介護ロボットやICTなどテクノロジーの活用による「業務効率化」ばかりに目が向きがちですが、講師の鎌田氏は「介護の価値を高めるための人づくり・組織づくり」こそ真の生産性向上であると言います。それは鎌田氏が厚生労働省と共に介護現場での生産性向上について取り組み始めた2017年以来最も重視してきたことです。本紙で好評連載中の斬新社・久保田好正氏による介護事業経営者向け企画「斬新な次の一手」の中で紹介したその本質と実践に結びつく手法を、セミナーではさらに掘り下げてお伝えします。ご参加をお待ちしています。

主催
シルバー新報 斬新社 バリアフリー展事務局

講師：鎌田 大啓 氏